



NPO法人 大阪環境カウンセラー協会  
副理事長  
地球環境関西フォーラム 戦略部会  
大学講師等  
(近畿大学、大阪産業大学、鳥取環境大学等)  
CEAR登録 環境主任審査員  
ひょうげ  
兵家しだれ桜保存会副会長

よしむら たかし  
吉村 孝史 氏

CSRレポート発行3年目を迎え、このレポートの発行が地に足のついたものになってきているのを感じます。つまり、CSR(企業の社会的責任)が重視され、普及してゆく中で単なるPRとしてのCSRだけではなく、実質的な成果を見せてこそそのCSRが評価される段階に入ってきたということです。それはCSRと経営との一体化が具体的に、より利害関係者の眼から見て感じられるようになったということです。

まず従業員との関係では、従業員福利厚生施設「カフェラウンジ“集”」のオープンです。それは、社長と従業員代表の満面笑みをたたえてテープカットしている写真が紹介されています。この一枚がすべてを物語っています。待望の施設ができたことは、何度も口にするよりこのような結果を示せたこと、従業員の強い福祉への要望があり、企業経営がちゃんとしていないとできないことです。

次いで、省エネ(電力消費量の削減)は、10%の目標が31.9%と大幅に上回って達成されました。その背景には、照明の徹底したLED化があります。単に休み時間の消灯だけではこれはできません。かけ声だけで省エネを行う時代から、投資は伴いますが環境にいいものに変えていくという地球温暖化のための国民運動「クールチョイス(=賢い選択)」が環境省として取り組もうとしている矢先に、先手を打ってLED化に取り組んだ成果が出ています。かけ声だけでなく、経営判断につながっているこの取り組みは、その成果を如実に示しています。

そしてこのようなCSRの取り組みがこれまでの実績だけでなく、これからも引き継がれてゆくよう今回きっちシステムとしてできあがりしました。それは社長のトップコミットメントに強調されている「CSR重視の視点でトータルエンジニアリングを育む」ということです。EMM(Engineering・Manufacturing・Maintenance)を旗印に「エンジニ

アリング」「機器・ものづくり」「保全」の3つを柱として取り組んでいくということ。2020年度の経営目標をそれぞれに明示するとともに、CSRロードマップを今回新たに追加、CSRの目標・重要達成指標(KPI)・実績などを明示し、これまでの取り組みを総括したうえで2020年度までの目標も明らかにして、企業経営とCSRの今後についても一体化に取り組んでいます。経営トップがCSRの重要性をいくら唱えても、その意思が社員や利害関係者に届かなければ課題の克服はできません。そのために、コミュニケーションを充実すると社長は語っておられますが、先の「カフェラウンジ“集”」「照明のLED化」「KPIの明示」はその好例です。

法令違反については残念ながら1件ありましたが、隠し事にせず従業員全員に対して緊急メッセージを渡し、このCSRレポートでも取り上げていることは評価できます。

今後の課題としては、定期的に発行し内容も充実している「ニュースレター」のより一層の活用です。CSRレポートは毎年期末試験のように取り組むのではなく、日常から意識して情報を集めておく必要があります。「ニュースレター」はそのツールになります。「ニュースレター」はステークホルダー(利害関係者)向けとされていますが、社員は利害関係者として認識することが肝要です。

さらに、成果の上がった照明のLED化に次ぐ、次のクールチョイスは何にするのか、経営判断のいることなので前もって検討しておくことが必要です。

また、持続可能な社会に向けた取り組みは、低炭素社会(省エネ・創エネ)、循環型社会(3R)、自然共生社会(生物多様性)を目指すものとされています。このCSRレポートは、低炭素社会は電力削減・太陽光発電、循環型社会は廃棄物削減などを取り上げられ、KPIでも目標を立て実績フォローされています。自然共生社会は、地域社会との共生で取り上げられてはいますが、生物多様性のシンボル琵琶湖を近くに抱えながら、先の二つに比べ取り組みが弱く思えます。

日本経済新聞の経営の視点で「CSRは企業の競争力を左右する」という記事(2017年4月3日付)がありましたが、その中で従業員の一体感や意思疎通を促し、ミスや不祥事を防ぐ効用も見込めると書かれています。3年目でジャンプした関西ティーイーケイ(株)のCSRレポートの次の段階としてよく認識していただきたいことです。

## 第三者意見を受けて

日本を代表する大企業が不正や不祥事などにより会社存亡の危機に直面する報道をたびたび耳にすると、「CSRと経営の一体化」が如何に重要であるかを改めて考えさせられます。

当社は東レグループの一員として東レと一体となった事業運営を進めています。「人を大事にする経営」「企業は社会の公器である」といった経営思想は、当社もまたそのDNAを受け継ぐグループ企業として最優先させねばならぬ課題であり、これこそが「CSRと経営の一体化」であると考えています。

人は一朝一夕には育成できるものではなく、人材が人財となっていく土壌をしっかりと築いていかねばなりません。従業員との様々な機会をとらえたコミュニケーションもその一環です。エンジニアリングは人づくり、ものづくりも人づくりです。持続性の最優先課題は何をおいても

「人を大事にする経営」を様々な形で具現化していくことです。

また、当社も「社会の公器」として存在すべく、環境保全に感性を上げた取り組みも重要です。低炭素社会、循環型社会、自然共生社会へ向けた取り組みは、徹底したLED化や廃棄物削減、再生利用のシステム化を進めていきます。LED化の次は最新鋭省エネ空調機への更新などで更なる省エネにも取り組んでいきます。また、働き方改革も叫ばれる中、効率的に業務を終えて、建屋の温調や照明をさっさと止めてしまうような「クールチョイス」も実現せねばならないと考えています。

CSRレポートも発行3年目を迎えました。「CSRと経営の一体化」が本当にできているか、このレポートをご覧くださいと言えるまでに完成度を高めるとともに、社内外の皆様から評価をいただけるものに仕上げていく所存です。



関西ティーイーケイ株式会社  
専務取締役

よるず しゅんいち  
萬 俊一